

第3回近江八幡市地域福祉計画策定委員会 議事録

日時：平成29年2月3日（金）午後2時から4時

場所：近江八幡市役所西別館「第6会議室」

出席者：【委員】 山下委員長、二村副委員長、氏田委員、水野委員、中根委員、
山中委員、八耳委員、小西委員、引間委員、高橋委員、大谷委員、
榊原委員、中島委員

【市】 鳥居部長、福祉政策課：小林次長、土井課長補佐、野田主事、野洲

【社会福祉協議会】 重野課長補佐 ※傍聴

【司会：土井、説明：野洲】

1 開会

- ・ 一谷委員退任に伴う中根委員就任の紹介。
- ・ 事前配付資料の確認。
- ・ 3/11開催の「見守り支えあいの地域づくりシンポジウム」のお知らせ（社協より）

2 議事

（委員長）

- ・ 地域福祉の取り組みは、“このまちに住んでよかったと思えるようにすること”。これが実現できる計画にする必要がある。
- ・ 最終の委員会となるので、貴重なご意見をいただきたい。

（1）報告事項・第2回策定委員会の議事内容（資料1）

- ・ 事務局より、計画案の修正に反映した意見を中心に報告。
- ・ 意見、質問なし。

（2）第1章から第4章の修正点について（資料2）

（3）重点事業および推進事業の取組内容について（資料2、3）

- ・ 事務局より概略説明。資料2の大きな修正点は第2章（p.21～）に記載の課題と第4章（p.39～）の取り組みの整合性を図るため、事業や内容の追加・修正を行った。また見やすさの点でp.21以降の表に“方策”欄を設けた。
- ・ 資料3は、今後の事業の進捗管理に活用するもので計画への掲載はしない。計画書には、p.65以降の表に事業名と担当課、関連計画名を掲載する。

（委員）

- ・ 近年の民生委員の活動は変わってきた。かつては学区で独自の活動を展開していたが、今は行政の下請けのようになり主体性がなくなっている。安土地区では各民生委員に自由に発言してもらえるような場を持っている。
- ・ 民生委員活動は継続することが大事で、そのためには地域の歴史風土を知るこ

とも必要。担い手育成にはコーディネータが必要で社協の役割である。

(委員長)

- ・ 全体に文字が多いように思う。地区社協の表記がもれているところがあるので確認いただきたい。
- ・ 資料3では担当課が明確になっているので、これをもとにしっかり取り組んでもらいたい。

(委員)

- ・ ある会議で聞いたこととして、高齢者の見守り活動の中で、初めは買い物の支援などであったが預金を下ろすことまで発展した例があり、支援する側の負担が増えていったとの話があった。支援者の負担が重くならないよう長く続けられる仕組み、誰でも助け合いが出来る仕組みが必要。

(委員長)

- ・ 身近な生活支援は課題。市内の権利擁護事業の利用者は80名を超え他市と比べると多い。権利擁護事業や成年後見制度の利用者は今後増加するので、生活支援する人と自治会長、民生委員などの協力体制が必要になる。

(委員)

- ・ 12月には民生委員の一斉改選があった。人選には苦労があり次期改選の時はさらに大変になるだろう。職務の内容も難しく誰でもできるものではなく、市職員や教職員のOBにも協力いただきたいと考えている。
- ・ 自主防災組織については、形骸化している地域も多く消防団任せになっている状況がある。
- ・ 自治会長や連合自治会長には市からの充て職の依頼が多く繁忙。それらに対し、市は報告・結果を求めないので形だけのものとなっている。

(副委員長)

- ・ 民生委員の改選に関しては個々の民生委員が次の人をお願いしたりしている状況。個人任せではなく上部の組織などで対応する必要がある。

(委員)

- ・ 民生委員が地域の隅々まで把握することは難しく、他に助けてもらえる人を育てることが必要。

(委員長)

- ・ 住民が地域を大事にできるそういった盛り上がり的大事になる。
- ・ 自治会と自主防災組織は同じ地域も多い。自治会が普段の見守りを行い、災害時の対応を自主防災組織が行う。両者が連携してうまく進める必要がある。

(委員)

- ・ 自主防災組織の設置は必要なことだが、補助金の受け皿になり形骸化しているところもある。今は、消火器を使えない人、日野川の氾濫の危険性を知らない人もいる。人を育てなければならない。

(委員)

- ・ 防災の問題は命にかかわる。自分は近所の認知症の方を日頃から気にかけてサロンへも誘っている。こういったつながりがあると災害時にも支援できるが何人も助けられる訳ではないので、こういった普段からのつながりを作ることが大事。災害時の支援体制をきちんと作る必要がある。

(委員)

- ・ 岡山学区では防火防犯診断という取り組みをしており、毎年、消防団が各家庭を訪問し、高齢者がおられるか、消火器設置の有無、戸締りはしているかななどを調べている。個人情報の問題が言われる状況で非常に貴重な情報源になっている。

(委員)

- ・ 先日、十七団地の見守り活動の紹介を八幡学区の自治会長会で行った。参加された方からは、自分の地域では実践が難しそうとの感想が多かったが班での見守りの取り組みが広がればいいと思う。

(委員)

- ・ 社協と市は車の両輪で進めていく必要がある。互いにしっかり話し合うことが必要。
- ・ 子どもが少なく役員の負担が増えるため子ども会の活動が衰退している現状がある。江の島では、私たちが行う見守り活動の中で、子どものクリスマス会の企画や資源ごみ回収などを実施し活動を続けている。市で子ども会の支援をするところはないのか。
- ・ 子育て広場の中で保育園の待機が多い問題を聞いている。また、子育て支援の場に出てこない人の支援が問題である。

(委員)

- ・ 子育て支援の場に出てこない人の支援は課題で、各地域で身近に顔を合わせられる居場所づくりができればいいと思う。この時、社会福祉法人などの施設を開放してもらえると有り難い。
- ・ 子育てサポーターの養成をしているが、有償でなく無償を望まれる人もいる。どちらの選択肢も必要。

(委員)

- ・ 子ども子育て会議でも待機児童問題は議論しており市内では4か所の小規模保育所ができているが整備してもニーズは増加し続ける状況。
- ・ 30年ほどお母さん方に関わる中で考え方の変化を感じている。子どもや地域のために動こうという人は少なくなってきた。親への働きかけ、施策が必要。
- ・ 計画書の中に担当課が書かれているが名称も変わってきており市民に分かりづらい。子どものこと、障がいのことなどをどこに相談すればいいかを分かりやすく周知できればいい。

(委員長)

- ・ 総合相談やワンストップ窓口の取り組みはどうなっているのか。

(部長)

- ・ 相談窓口の周知は一覧ポスターを作り、転入者へは周知し、全戸にも定期的に配付している。
- ・ 相談窓口のワンストップ化については、今は数か所の建物に福祉の相談部門が分かれており、職員の情報連携などソフトの取り組みをしている。今後は新庁舎の中で、ハード面でも一か所に集約する予定。

(委員)

- ・ 障がい児者の自立支援協議会で災害時の対応を協議しているが災害はいつ起こるか分からず準備に難しさを感じている。行政の制度も様々出来てきたがそうした情報を当事者に提供してもらいたい。制度は充実したが家族の不安は大きくなっている。
- ・ 障がい児の親の意識も支援者から利用者が変わってしまった。親も支援者の一人であるはずだが。

(委員長)

- ・ 介護保険サービスや障害福祉サービスが出来てみなが消費者になってしまった。難しい問題だが、地域に暮らしを取り戻せるよう、市や社協、地域関係者の協働が大事になる。

(4) 第5章「計画の推進」について (資料2)

- ・ 事務局より概略説明。庁内の推進組織と社協との協議の場を新たに設置し推進していく。平成31年度には中間評価を実施予定。

(委員長)

- ・ 外部委員による進捗管理委員会が必要だと思うが設置しないのなら、社協との事務局会議に地域の関係者も入っていただくようにした方がよい。

(事務局)

- ・ そのように修正する。地域関係者だけでなく庁内の関係課も適宜入るなど柔軟な組織としたい。

(5) 参考資料の内容について

(委員長)

- ・ アンケート結果やヒアリングなどによる住民の意見、結果はしっかり掲載してもらいたい。

○その他

(委員長)

- ・ 今後の細かな修正等は、委員長、副委員長と事務局で調整させていただきたい。
- ・ 計画策定後は、①市は計画の内容や地域の実情などを市民にしっかり伝えること。②庁内の連携を的確に行い福祉以外の部門も含め計画を実践すること。この

二点をきっちりと実施してもらいたい。

(副委員長)

- ・ 以前は当たり前にあった地域のきずなが崩壊し大変な状況になってきている。地域の様々な課題を住民が見つけ話し合い解決に努めていくことが大事。有意義な議論ができ感謝している。

3 今後のスケジュール（資料4）

4 策定後の周知等について

- ・ 事務局より概略説明。
- ・ 本日の意見をもとに修正を行いパブリックコメントを実施する。大幅な修正が生じた場合は再度庁内の検討会議を実施する。パブコメの結果は委員にもお知らせさせていただく。
- ・ 計画策定後の市民への周知について、概要版をA4・8ページの内容で作成する。現状データを分かりやすく提示し、地域で起こっている変化を伝えていきたい。
- ・ 広報紙では9月に特集を予定している。A4・4ページ分で、9月末頃開催の社会福祉大会の周知も兼ねたい。取り組み事例等も紹介し読みやすくしたい。

5 閉会（部長挨拶）

- ・ 3回にわたり貴重なご意見を賜り、計画を進める上での示唆を与えていただいた。これは各個別計画を作成する上でも大変参考になるものである。計画を作成した時点がスタート。しっかり実践していきたい。

以上